

奄美群島の9自治体と

水道スマメ実証実験協定

NTT西日本、NTTテレコン

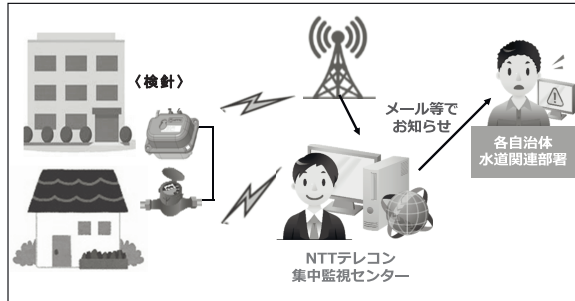
奄美群島の9自治体と、NTT西日本鹿児島支店（瓜生昌史支店長）、NTTテレコン九州支店（中島伸樹支店長）



協定締結調印式の様子

は、上水道関連業務のDX化に向け、8月8日に「水道スマートメーター実証実験の実施」に伴う協定を締結した。複数自治体が連携して実施することで、特定エリア間での情報共有や共同検証が可能となるもので、全国的にも珍しい先進的な取り組みだ。地方自治体における公共施設・道路・水道などのインフラ整備に関わる事業費などは増加傾向にあるとともに、その事業に携わる人材についても慢性的な不足が課題となっており、DX化の推進による

◆サービス概要



業務効率化が急務となっている。

今回の実証実験は、上水道関連業務のDX化に向け、特定エリアの複数自治体が合同で、通信端末と集中監視シス

テムを活用した水道メーター遠隔検針について実証実験を行うもの。

実証実験は準備が整った自治体から順次開始し、2026年5月まで行われる。NTTテレコン製の通信端末と電子式水道メーターを接続することに

の向上について、定量的な効果測定を行う。期待される効果として、▽検針業務の効率化による、検針コストの削減、および人員不足の解消▽難検針の解消▽蛇口の閉め忘れや漏水等によるトラブル早期発見▽検針時に利用する車両等の排出する二酸化炭素削減——を想定している。

与論町・田畑克夫町長が出席。NTT西日本鹿児島支店瓜生支店長、NTTテレコン九州支店中島支店長ともに、署名を行った。

実証実験においては、遠隔検針による業務効率化の効果も定量的に評価するとともに、特定エリア複数自治体による合同での実証実験という特性を最大限活かし、通信端末を通じて収集されるデータを各自治体で共有し情報を交換。検証効果を最大限高めるとともに、見守りサービスへの適用や自然災害への対応等、住民サービスの向上に向けたDXの推進やスマートメーターの共同調達によるコスト削減等についても検討していくことにしている。

8日に鹿児島市サンロイヤルホテルで行われた協定締結調印式には、奄美群島各自治体から、奄美市・安田壮平市長、大和村・伊集院幼村長、宇検村・元山公知村長、瀬戸内町・鎌田愛人町長、龍郷町・竹田泰典町長、喜界町・隈崎悦男町長、和泊町・前登志朗町長、知名町・今井力夫町長、